

ビジネスアーキビスト 養成講座の開設

企業史料協議会Business Archives Associationは、法政大学産業情報センターと協力し、法政大学公開講座のひとつとして今年から「ビジネスアーキビスト養成講座」を開講した。「ご案内」リーフレットで企業史料協議会会長後藤新一氏いわく、

企業活動の記録を将来に役立つ“史料”として、どのように残し、管理していくかは企業にとってますます重要になっており、この仕事を担当する人材を育てていく必要があります。

とのことで、なかなかの意気込みである。

この種の研修会としては、国立史料館の「史料管理学研修会」、国立公文書館の「公文書館等職員研修会」、それに全史料協が一昨年からはじめた一日研修会に次いで4つ目だが、明確に“アーキビスト養成”を標榜した講座は初めて。公文書館法がらみのアーキビスト養成論議にも少なからぬ刺激を与えるのではないかと思われる。

今年の講座日程は4月16日から7月16日までの3ヵ月間。受講生が出やすいよう、毎週木曜日午後1時間半の講義を2コマ行う形をとり、合わせて13日、26コマ、39時間という時間数であった。参加者は、定員30人のところ28人。企業内で資料・図書管理、社史編纂などの業務を担当している人が中心だったが、公開講座だから個人の資格でも参加できる。ただし受講料は10万円（企業史料協議会会員は8万円）。

カリキュラムは次の通りである。

- (1)総論（企業アーカイブズ論、アーキビスト論）、(2)記録管理論（現用企業記録体系、資料と史料）、(3)企業史料論（企業制度の発達と史料、経営活動と企業史料）、(4)史料管理論（原則、収集と管理、年史編纂、利用サービス）、(5)史料管理演習（史料評価）、(6)企業アーカイ

ブズ事例研究、(7)史料保存の技術（文書史料、史料室設計、写真、ポスター、フィルム・テープ）、(8)機関見学（今年は東京都公文書館）。

来年以降もほぼ同様のかたちで開催される予定。お問い合わせは法政大学産業情報センターまで（電話 03-3264-9421）。

安藤 正人・国立史料館